女性学評論　第37号　Women's Studies Forum No. 37（March 2023）pp. 197-199

## 優秀賞論文要旨

# 現代の日本人は男尊女卑的な考えを持っているのか
## ──選択的夫婦別姓制度に対する考えとの関係──

高　馬　若　菜

男女平等化が叫ばれる世の中であるが、未だ男女差別的な発言を耳にする機会は少なくない。特に女性が男性に見下される状況が取り沙汰されることが多いものの、酒井（2017）は、女性を見下す男性が存在しているだけではないと主張している。女性の中にも、意識的あるいは無意識的に女性を下にみる気持ちがあったり、弱さをアピールポイントとして異性に媚びたりする者も少なくないと指摘し、そのような女性を「男尊女子」と称している。ただし、これらの指摘は著者の身近な経験に基づいたものであるため、本研究では、実際に男尊女卑的な人がどの程度存在するのかを実態調査する。また、導入が検討されている選択的夫婦別姓制度について、改姓するのがほとんどの場合妻であるという現状から、制度の導入は女性に不利な状況を改善するための制度といえるが、女性でも導入に反対する人がいるようである。本研究の目的は、現代の日本人において、男尊女卑的な態度の人がどれくらいいるのか、自身が男尊女卑的な態度をとる女性は、他の女性にも男尊女卑的な態度をとることを求めるのか、また、男尊女卑的な態度と選択的夫婦別姓制度の導入に対する賛否に関係があるのかを調査することである。

18歳以上の日本人男女を対象に、Google フォームを用いた意識調査を行った。女性への質問には「男性と接する際、無知・無教養を装うことがある」など、男性への質問には「自分よりも学歴の高い女性には近づきがたい」など、８項目からなる質問への肯定反応によって回答者自身の男尊女卑的態度を測定

した。また、同様の項目について、他の女性もそうした方がよいと思うかどうかを尋ね、自分以外の女性にも男性に対して卑下することを求める態度を測定した。さらに、選択的夫婦別姓制度の導入に対する賛否とその理由を尋ねた。

調査には305名（未婚男性59名、未婚女性140名、既婚男性72名、既婚女性27名）が参加した。調査の結果、自分自身が男尊女卑的な態度をとる人は未婚男女では８％、既婚男女では４％存在し、未婚者の場合、女性の方が男性よりも男尊女卑的な態度の質問に「あてはまる」と回答した項目数が多く、女性の方が男尊女卑的である可能性が示唆された。自身が男尊女卑的な態度をとる女性のうち、女性一般にも男尊女卑的な態度をとることを求めている人は１割に満たず、多くの女性は自身も男尊女卑的な態度をとらないうえ、他者にも求めないことが明らかになった。ただし、「結婚後、姓を変えるのは男性よりも女性のほうが良い」という項目については、肯定する人の割合が比較的高く、40代以上の人では44％、20代以下の人では24％の人が肯定していた。

選択的夫婦別姓制度の導入に「賛成」と回答したのは188名（62％）、「どちらともいえない」と回答したのは89名（29％）、「反対」と回答したのは27名（９％）であり、積極的に反対する人は多くはないことがわかった。「どちらともいえない」人の理由に、「よく考えたことがなく、何とも言えない」といった回答や、「賛成」の人と同じ「人それぞれの自由」といった回答が多かった。したがって、選択的夫婦別姓制度は、同姓にするかしないかを「自由に」選択できるようにするための制度であることを理解させることで、これらの理由をあげた人は賛成に転じる可能性が高いと考えられる。

さらに、制度の導入に賛成する人と賛成しない人で、男尊女卑的な態度を測定する質問項目の肯定数を比較したところ、賛成しない人の方が肯定数が多く、より男尊女卑的であることがわかった。男尊女卑的な態度を求める人や、選択的夫婦別姓制度の導入に賛成しない人の割合は、40代以上の人と比べて20代以下の人に少なかったことから、世代交代によって男女平等化が徐々に進むと考えられるが、世代交代によって男女平等化が徐々に進むと考えられるが、

それを促進するためには、選択的夫婦別姓制度をはじめさまざまな取り組みに対する国民の理解を求めていく必要があると考えられる。